BEST AVAILABLE CORY

公開実用 昭和57-136105



実 用 新 案 登 録 願

昭和56年02月21道

(Acourt) 简 特許庁長官島田春樹殿

1. 考案の名称

ショウ メイ キ グ 照 明 器 具

2. 考 案 者

かつけま サイワイ おりかつ 神奈川県川崎市幸区堀川町72番地 トウシバデンザイ おりかつ ジギョウジョウナイ 東芝電材株式会社堀川町事業場内

 シ まず か ず

 清 水 幸 治

3. 実用新案登録出願人

東京都港区芝浦1丁目1番43号 375 東芝電材株式会社 代表者 佐藤 大 六

4. 代 理 人

〒160 東京都新宿区新宿4丁目3番22号(安藤ビル)

6276 升型士 樺 澤

襄弱原第)

電話 東京 358-161(代)

方式



56 023599

明

絀

耕

/ 考案の名称

照 明 器 具

2 実用新案登録謝求の範囲

(1) ランプと簡状をなし上記ランプを覆う光拡 散性のグロープとを具備し、上記グローブは上記 ランプと近接する部分を肉厚に形成し、透ざかる に従つて肉薄に形成したことを特徴とする照明器 具。

3 考案の詳細な説明

本考案は照明器具に係り、特にランプを囲周する照明用グローブに関する。

従来、照明用のグローブはガラスなどにて形成した透明体の内面に、セラミツクまたは樹脂強料などを塗布し一様の厚さに拡散膜を形成させ、グ

13612.

公開実用 昭和57-136105

种当实

ローブの内部に位置するランプの光を拡散する構造となっている。しかしながら、この構造ではランプ中心からグローブ面までの距離が異なり照度が異なるため、グローブ全体が一様な明るさとはならず、ランプに近い位置は明るく、遠い位置は賭くなり、このため光がグローブにより一様に拡散されないという欠点があった。

本考案は上配欠点に鑑みなされたもので、グローブ全体を一様な明るさとし、グローブにより光が一様に拡散できるようにした照明器具を提供するものである。

次に本考録の一段施例の構造を図面について説明する。

(1)は家屋の天井面(2)などに取付けられ電源線に接続された臨球用ンケットである。(3)はグローブ

ا أولم جوام أثاروا

用ソケツトで前記電球用ソケツト(1)を囲周して天 井面(2)に取付けられている。

(4)は照明用グローブで、電球用ンケット(1)に取付けられたランプとしての電球(5)を囲周し、周知の手段にてグローブ用ンケット(3)に取付けられている。このグローブ(4)は筒状に成形された透明ガラス(6)の内面にはセラミックまたは樹脂塗料などからなる乳白色の拡散膜(7)が塗装などの手段にて塗布されている。この拡散膜(7)は電球(5)から近い位置は肉厚に、遮ざかるにつれて徐々に肉薄になつている。

次にこの実施例の作用を説明する。

電球(5)の光はグローブ(4)の拡散膜(7)にて拡散されるが、この際、電球(5)から近い位置では拡散膜(7)が厚いため、拡散膜(7)内での乱反射が多くなり、

公開実用 昭和57-136105



たの拡散率が大きくなりかつ透過率が小さくなり、 ・ 以(5)から速ざかるにつれて拡散膜(7)が徐々に薄 くなるため、乱反射が少なくなり、拡散率は小さ くなりかつ透過率が大きくなるため、クローブ(4) の表面の明るさは一機となる。

なお、前配契約例においてはグローブ(4)を透明 ガラス(6)の内面に拡散版(7)を塗布した構造とした が、乳白色のガラスにて形成することもできる。 この場合はガラスの原さをランプの近傍では肉厚 に、遠ざかるにつれて徐々に肉苺に形成すればよ

本海袋によれば、グローブの表面の明るさが一 なとなり、光が一様に拡散できるものである。 4 図面の簡単な説明

か1 図は本寿袋の照明器具の断面図、オ2 図は

特美

同上グローブの拡大断面図である。

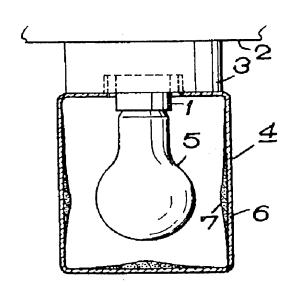
(4)・・グローブ、(5)・・ランプとしての電球。

昭和56年2月21日

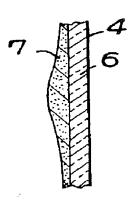
* 秶 潸 水 者 幸 治 **埃用新案登録** 東芝 亂 材 株式会社 出 볦 代 理 樺 沢 人 同 **Fert** 狄 ſά 乐 Œ

公開実用 昭和57-136105

第1 図



路2圆



:01,05

大學 其 外2名

華山山山

5. 添付書類の目録

(1) 明細 醬/

1 通

(2) 図 面/

1 iii

(3) 委任状/

1 逝

(4) 顯書副本

1 通

6. 前記以外の代理人

(3)代理人

〒160 東京都新宿区新宿4丁目3番22号(安藤ビル)

6366 弁理士 樺 澤

停 停 記 選 中

间 所

8468 弁理士 島 宗 正

見思報

135/00-